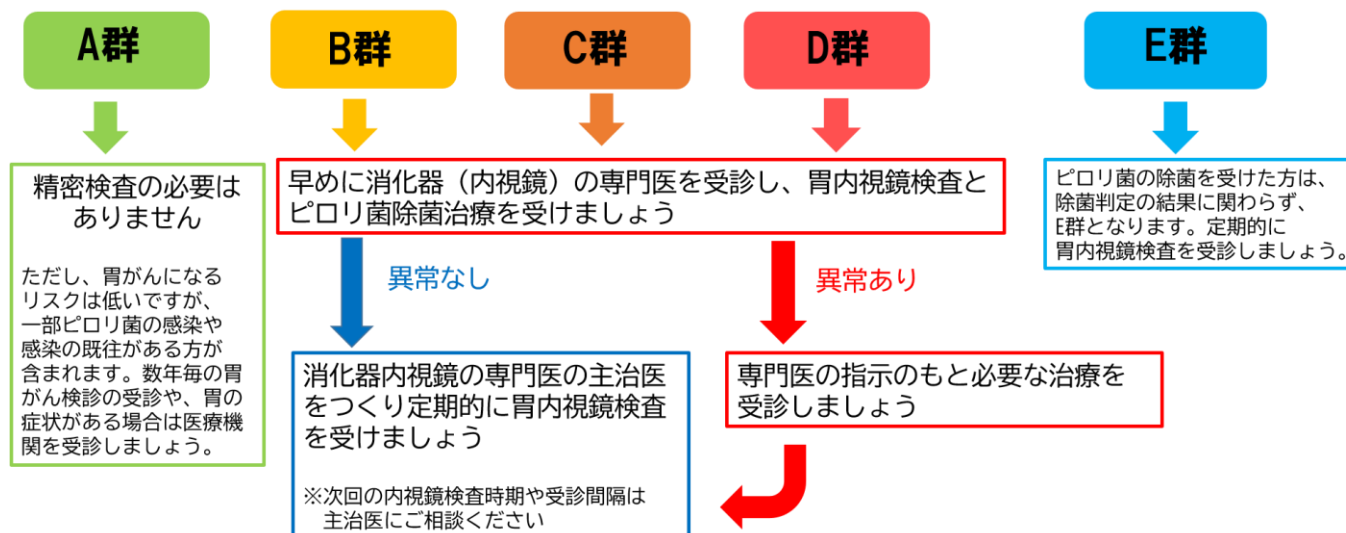


加須市胃がんリスク検診について

〔検診後の流れについて〕



①ペプシノゲン検査について

胃粘膜で作られる血液中のペプシノゲン量を測定し、胃粘膜の健康度を調べます。ペプシノゲン検査が陽性の場合、胃粘膜が萎縮・炎症（萎縮性胃炎）が進行し、胃潰瘍や胃がんなどが発生しやすい状態のため、早期に治療を開始することをおすすめします。

②ピロリ菌抗体検査について

血液中に含まれるピロリ菌抗体を測定し、胃の中にピロリ菌が存在しているのかどうかを調べる検査です。抗体が一定以上ある場合に陽性となり、ピロリ菌に感染している、あるいは過去に感染していたと考えられます。ピロリ菌感染は胃潰瘍や胃がんの主な原因でもありますので、早期に除菌治療をすることをおすすめします。

③ピロリ菌について

ピロリ菌は人の胃の中に住む細菌のことをいいます。ピロリ菌は井戸水や親からの口移しなどから感染するといわれていて、ほとんどの人が幼少期に感染します。ピロリ菌を除菌しない限り、ピロリ菌は胃の中にすみ続け慢性的な炎症が続いてしまいます。そうなると、胃の粘膜を防御する力が弱まり、胃潰瘍や胃がんになる可能性が高くなります。

〔注意事項〕

- 胃がんリスク検診でB, C, D群判定となった方は胃がんのリスクが高いため、精密検査を受診しましょう。精密検査が必要となった方で、同じ年にすでに胃内視鏡検査を実施している場合は、医師にその旨をお伝えください。
- 胃がんリスク検診でA群の判定となっても、一部ピロリ菌の感染や胃の他の疾患に罹患している可能性があります。自覚症状がある場合はかかりつけ医へご相談ください。